

〔夏季例会報告〕

木曽郡木祖村の植物観察会

橋渡勝也

第152回例会は、平成8年9月7日（土）8日（日）に、木曽郡木祖村において行われた。参加者は、林一六会長、宮島吉彦、塚田良夫、中村英夫、篠原喜運、丸山千恵子、斎藤定美、竹花けい子、相馬敬子、平林陸男ご夫妻、大塚孝一、中山博子（鎌倉市）、和田良子（横浜市）、山下勇（浜松市）の各氏、地元木祖村から木祖村誌編纂室長の澤頭修自氏、松原秀幸氏と橋渡勝也（幹事）の計18名であった。

第1日目は、午後、宿舎の栗屋民宿に集合し、持ち寄った標本の検討会などを行つた。夕食では季節の郷土料理を囲んで懇親を深めた。夜は、木祖村味噌川に由来するミソガワソウ、「お六節」の原料ミネバリについて橋渡から資料が提供され、熱心な勉強会が遅くまで続いた。

第2日目は、早朝民宿前のあやめ池周辺を観察し、当日参加者も揃ったところで、水木沢「郷土の森」へ出発した。水木沢国有林一帯は、現在まで伐採を免れた貴重な森林である。平成3年に、村は長野営林局と保存協定を結び、ここを「郷土の森」に指定し歩道を整備して、平成7年5月にオープンしたものである。この森は、潤沢で肥沃な立地に、針葉樹とブナを中心にした広葉樹とが混交した林が特色である。今回は、右岸の斜面の「原始の森」と名づけられた地域を歩いた。

1220m付近のヒノキ人工林周辺では、ホンバシケシダ、サトメシダ、コチャルメルソウ、ミヤマイトナシダ、ホソバトウゲシバ、アスヒカズラ、シノブカグマ、ホソバナライシダ、オシダ、シシガシラ、ツルアリドオシなどを観察した。

続いて天然林に入り、圧倒されるようなウラジロモミ、サワラ、ブナの大木を見上げながら歩いた。沢に沿って次第に高度を上げて行くと、ツルシキミ、シラネワラビ、イッポンワラビ、ミヤマシケシダ、リョウメンシダ、

ミヤマベニシダ、クワガタソウ、キヨタキシダ、オオヤマハコベ、ヤマイトワラビ、イトガンソク、ケヤマイトワラビ、ウスゲタマブキ、カラクサイヌワラビ、イワシロイデ、ジュウモンジシダ・イワガネゼンマイ、ムカゴイラクサ、ノブキ、ヤマドリゼンマイ、ミゾシダ、ツルニンジン、コウシンヤマハッカ、ヤマソテツ、コケシノブ、ヤブニンジン、ルイヨウボタンなどが見られた。

カツラ、サワグルミ、トチノキを中心にした溪谷林に沿って、サカゲイノデ、タマガワホトトギス、ツリフネソウ、サワギク、ヤマソテツ、キヨタキシダ、ウバミソウ、シナノキ、タマアジサイ、イワシロイノデ、キケンショウマ、ヤマイトワラビなどを観察した。

山腹では、この「雑土の森」のシンボルである大サワラ（幹周330cm）を見て、尾根（1360m）に出た。この辺りでは、ブナに混じってクロベが目立つようになり、タムシバ、コカスゲ、ツルツゲ、ムラサキヤシオツツジ、ウラジロモミ、ヤドリギ（ブナに着生）、ツガ、コシアブラ、バйкаツツツジ、ケナガウスギヨウラク、ニッコウシダ、ウスノキ、ヒロハツリバナ、ヤマイトワラビ、ミヤマシグレ、ヤマグルマ、ツバメオモトなどを見た。

「郷土の森」の観察を終え、最近になって完成した味噌川ダムに沿って北上し、味噌川の河辺で昼食をとった。付近の岩場では、ヒメコケシノブを教わり、ホソバコケシノブとの違いを観察した。

午後は、藪原から鳥居特までの自然観察路周辺を観察した。白と紅の両方の花色をもったゲンノショウコを見ながら高度を上げていくと、峠付近でシロモジとアブラチャンが関係すると思われる珍しい「アブラシロモジ」に出会った。付近には同じクスノキ科のダンコウバイもあり、3種の関係を興味深く観察した。

4時に麓へたどりつき、解散となった。遠方からわざわざ参加して下さった方々、ご支援をいただいた木祖村講編舞室、栗屋民宿さんに厚く御礼申し上げます。